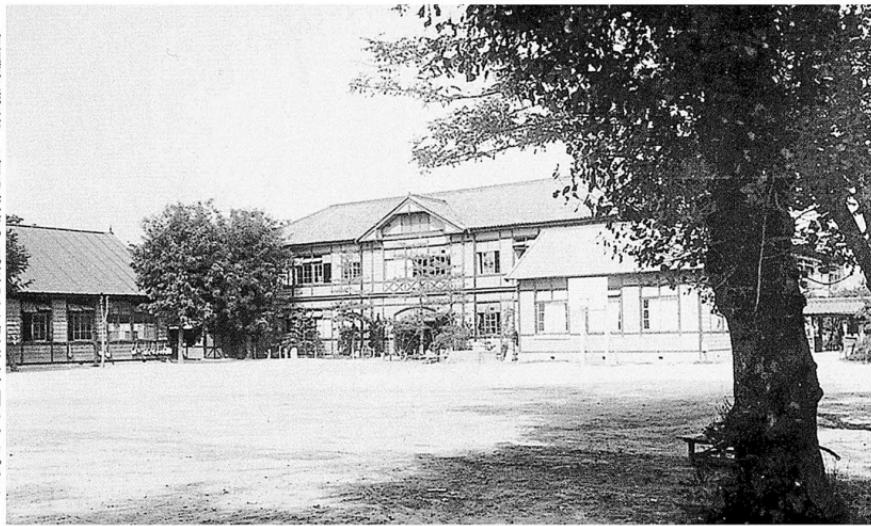


高校人国記

広島大学付属高校(広島市南区)③

日本サッカー

興隆の原動力



原爆で焼失する前の校舎。現在の広島大東千田キャンパスにあつた
(広島大学付属中・高等学校 創立百年史(上巻)より)

E メモ



<かつての卒業生=政治・社会・スポーツ>浜井信三(1905~68年)広島市長を4期務め、復興に尽力。核兵器の全面禁止を訴えた▽手島志郎(07~82年)戦前の日本サッカー界を代表する選手。殿堂入り▽今堀誠二(14~92年)中国近現代史研究家。広島女子大(当時)学長。原水爆禁止運動に取り組んだ▽藤居平一(15~96年)日本被団協初代事務局長▽村上孝太郎(16~71年)大蔵省(現財務省)事務次官。参議院議員▽栗屋敏信(26~2016年)建設省(現国土交通省)事務次官。衆議院議員5期▽長沼健(1930~2008年)サッカー日本代表監督。メキシコ五輪で銅メダルに導いた。日本サッカー協会会長としてワールドカップ日本招致に尽力。殿堂入り▽桑原栄之(1942~2017年)サッカー日本代表選手、メキシコ五輪銅メダルのメンバー。

部活で全国にその名を知られたのがサッカーチームだ。戦前から名選手を輩出し、戦後は黄金時代を迎えた。旧制中学だった1947(昭和22年)復活第1回全国中等選手権を圧倒的な強さで制覇し、翌年の国体でも優勝。54(同29年)の全国高校選手権は決勝で引き分けで史上初の2校優勝。59(同34年)1月には全国高校選手権10月には国体で準優勝した。果立った選手たちは日本のサッカー興隆に大きな役割を果たした。

鬼武健二(81)は付属小時代、下校途中に1、2度見ただけの先輩のプレーが胸に刻みつけられたという。「動きは速いしドリブルはうまい。瞬にしてゴールを奪っていく。それはすごかった」。先輩とは41年後に優勝した木村現や長沼健、樽谷恵三(いずれも故人)。鬼武の9学年上だ。付属中3年からサッカーチームへ。O Bから厳しく鍛えられたが、高校時代は部員が減つたこともあり全国大会出場を逃した。だが進学した早稲田大では学生主導決定戦などで優勝。卒業後、木村たちと同学年だった古川能章(故人)に誘われヤンマー・ディーゼルへ。サッカーチーム(セレッソ大阪の前身)の主将、次いで監督を務めた。釜本邦茂を中心同部は日本サッカーリーグ(JSL)と天皇杯でともに3度優勝。監督勝利数93はJSL最多だ。セレッソ大阪社長を経て2006(平成18)年から第3代Jリーグチアマンを務め、サッカーの運営医の多々信(さん)がスクーターでやって来



Jリーグ第3代チアマンを務めた鬼武健二

練習 厳しさに加え内容も非常に濃かった



メキシコ五輪で銅メダルに輝いた小城得達

野村と桑田は早稲田大へ進学。26年ぶりに天皇杯を獲得するなど全盛期をもたらした。卒業後、野村は家業を継ぎ、後子チャス社長に。広島県サッカー協会会長や日本サッカー協会副会長を務めた。桑田は東洋工業(現マツダ)蹴球部(サンフレッチェ広島の前身)で活躍し日本代表としてアジア競技大会などに出場。家業を継ぐため退社した後も広島経済大サッカー部監督などを務め、今も小中学生のクラブを指導する。桑田もまた幼いころから先輩に憧れた一人だった。

小城がサッカーを始めたのは高校へ進学してからだが、1年からレギュラー。「1年が最も多いチームだったので『われわれがしっかりしなくては』との思いがあった。3年を中心伸展意識も強かつた。練習は厳しさに加え内容も非常に濃かつた」



桑田隆幸



野村尊敬

好きになれることが、熱心にやれることを見つけるのが大切

「高校人国記」は広島、山口両県を中心に回って、高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記係」。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp

次回は26日に掲載します。

古田篤良(68)は小城より10学年後輩。高校時代はサッカーの名指導者といわれた教諭福原黎三(故人)から学んだ。18歳だった早稲田大1年時、日本代表としてアイスランド戦に出場。年齢制限のない国際公式試合の最年少出場記録を更新した。卒業後、東洋工業サッカー部へ。2018(平成30)年から小城の後任として広島県サッカー協会会長を務めている。

かつては多くの高校運動部で上級生による暴力が行われていたといわれる。だが、サッカーチームではそれらが一切なかったのも伝統一と鬼武から古田まで全員が口をそろえる。サッカーチームOBには他に59年1月、準優勝した時のメンバーや元日本代表選手の大島治男(80)や丹羽洋介(80)、小城と同学年の船本幸路(78)、元サンフレッチェ社長織田秀和(59)がいる。II 敬称略(客員編集委員・富沢佐一)

て指導してくださった。夏休みの合宿では大学の先輩からすごく鍛えられた」と野村。練習後は近くの比治山(標高715m)山頂までランニング。徹底的に体を鍛えたおかげで「際にどうで頑張る」とができた」という。そんな経験を踏まえ「高校時代には勉強ばかりではなく、スポーツで体を鍛えておかなくては」と後輩へ注文する。

身だった。

メキシコ五輪で日本チームの監督を務めたの後任の広島県サッカー協会会長を歴任。殿寧入東京五輪には日本代表としてフル出場した。卒業後、東洋工業へ。桑田とともにJSLで第1回からの4連覇を含む5回優勝と天皇杯3回優勝に貢献。メキシコ五輪にもフル出場し銅メダルを獲得した。引退後は東洋工業監督や野村の練習後は近くの比治山(標高715m)山頂までランニング。徹底的に体を鍛えたおかげで「際にどうで頑張る」とができた」という。そんな経験を踏まえ「高校時代には勉強ばかりではなく、スポーツで体を鍛えておかなくては」と後輩へ注文する。



古田篤良